

我々のグループが討論した症例はステント脱落についての2例であった。1例はLCX入口部の石灰化病変へのステントデリバリーの際の脱落、もう一例はLMT 99%狭窄へのBail out 目的のステント留置(フレア)の際の脱落であった。2例とも透析症例であり、石灰化が強い病変であることは常に予想していなければならない。可能であれば、やはりIVUSでステント留置前に血管径・プラークの性状を把握するべきである。ステント種類・サイズは目的をよく理解し選択しなければならない。2例とも最終的にスネアを用いて回収したが、ステント脱落の際の貴重な対処法の一例を教唆していただいた。自分はステント脱落をいまだ経験したことがなく、貴重な経験だった。他、多様なイベントの症例提示があったが、どの対処法も非常に貴重な経験だった。